

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 14 日現在

機関番号：21301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730655

研究課題名（和文）ヴァイマル期ドイツにおける教育と「社会」概念

研究課題名（英文） A historical analysis on the concept “social” in educational thought in German in Weimar Era

研究代表者

山岸 利次 (YAMAGISHI Toshitsugu)

宮城大学・看護学部・准教授

研究者番号：50352373

研究成果の概要（和文）：本研究は「社会」概念の発見が教育思想にいかなる影響を与えたのかということヴァイマル期ドイツの教育思想を例にしながら考察しようとしたものである。そのために、本研究は当時の社会教育学の理論動向を検証しようとした。「社会」言説は当時の教育学の主流に直接的な影響を必ずしも与えたわけではなかった一方で、その言説は社会教育という固有の領域の成立に大きく寄与した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify the semantics of “social” in educational thoughts in German in Weimar Era. While “social” problems had not been important issues in educational philosophy, which was one of the main fields in pedagogy, discourses on “social” had contributed to spreading the field of “social pedagogy”.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|----------|---------|----------|
| 2009年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2010年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2011年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 1600,000 | 480,000 | 2080,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教育学

キーワード：ヴァイマル・ドイツ、社会教育、「社会」概念と教育

1. 研究開始当初の背景

現在、社会学的観点にたった教育学研究が活況を呈する一方で、そこでいう「社会」がいかなる意味・価値をもった概念であるかは必ずしも自明ではない。市野川容孝のいうところの「社会学の健忘症」が教育学研究にも妥当する。こうした現況を打破するために、本研究は教育理論における社会概念の意味論をドイツ・ヴァイマル期における社会的教育学・教育社会学を対象に検討する

2. 研究の目的

ヴァイマル期ドイツにおける社会的教育学・教育社会学における「社会(Sozial)」概念の意味論を明らかにし、それを当時の教育社会史的な文脈に位置づけることが本研究の目的である

3. 研究の方法

先行研究を踏まえつつ、一次資料を検討する。

4. 研究成果

(1) 本研究は「社会」概念の発見が教育思想にいかなる影響を与えたか、という問題

を「社会」概念の意味論という観点から、ヴァイマル期ドイツにおける教育言説を検討しながら明らかにしようというものであった。

(2) 19世紀後半以降「社会問題」の噴出のなかで、「社会」が学的概念として発明されることになる。そもそも、ある問題を「社会問題」と概念化することそのものが「社会」の発明という事態である。こうした概念化は教育思想にも影響を与え、この時期、「社会問題と教育」という問題構成が成立・展開することになる。

(3) こうした言説の成立・展開は固有の領域としての「社会教育 (Sozialpädagogik)」の成立へ大きな影響を与えた。しかし、その一方で教育学のメインストリームである哲学的教育学に対しては以上のような動向は必ずしも大きな影響を与えたわけではなかった。「社会」概念は「社会」教育の成立・発展には大きな影響を与えたが、「教育学」そのものには大した影響を与えなかったようである。

(4) なお、ここでいう「社会」とは社会学ないしは社会福祉学の学的対象としての「社会」であるにとりあえずは言うことができる。そして、それはより広い文脈で言うならば大衆社会と家族的に類似するものである。無論、それはホップズやロックが描いた市民社会とは大きく異なるものである。

(5) その意味で、本研究はイギリスの市民社会論を一つの苗床とする教育思想と比較することにより、大衆社会における教育理論の(不)可能性を考察するという比較思想的インプリケーションを持つものでもあった。

(6) 当初の予定では、「社会教育学 (Sozialpädagogik)」および教育社会学の諸理論を検討する予定であったが、諸般の事情により、この予定は断念せざるをえなかった。検討文献の収集が一定程度行うことができたので、今後、研究を進めて成果を公表したいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0 件)

[学会発表] (計0 件)

[図書] (計0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山岸 利次 (YAMAGISHI Toshitsugu)

宮城大学・看護学部・准教授

研究者番号 : 50352373

(2) 研究分担者

なし

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

なし

()

研究者番号 :